

## 自分で自分が守れますか

七時間目に避難訓練がありました。地震発生後、建物から出火という想定で行われました。このパターンでは比較的多く実施されているので、大きな混乱や問題はなかったようでした。しかし、あくまでも訓練です。安心や油断がいちばんの問題です。地震は予告なしに発生しますし、必ずしも全員が集まっているときに発生するとは限りません。「自分の命は自分で守る」と言いますが、まさしくその通りだと思います。

生徒の皆さん、あなたたちは何から自分の命や体を守らなければなりませんか。地震、豪雨、洪水、落雷などの自然災害。日常的に発生の可能性がある交通事故。大人がなかなか気付いてあげられないネットトラブル。いっどこで遭遇（そうぐう）するかわからない不審者。そして、最近では、街に出没している野生動物というの、人間に危害を加えています。それら全てに対する訓練をするというのは不可能です。だからこそ、最終的には「自分の命は自分で守る」という意識が大切なのです。

校長として最初に赴任した中学校付近には、野生のサルがよく出ました。皆さんは、もし野生のサルに出会ったらどのような行動をとりますか。最近では、街にもサルが出没します。瑞浪市でも出没する可能性はあると思っただ方がよいでしょう。

サルは賢いので、男性より女性、若者より老人、老人より子どもを襲います。弱いと判断した人間を襲うのです。したがって、サルをみつけた時、「おサルさんだ！」などと喜んで大きな声を出したら襲ってくる可能性が大きくなります。目を合わせた後に後ずさりしたり、急に逃げたりするのもいけません。サルは群れで行動することが多く、その中に子連れのサルがいたら要注意です。子どもを守るためにサルは攻撃してきます。

昼休みに、学校の近くにサルの群れが現れました。グラウンドで遊んでいた生徒たちは大きな声を出すのをやめて動きを止めました。放送で校舎内に入るように指示をすると、生徒たちは慌てることなく全員校舎内に避難しました。中にいる生徒もすぐに窓を閉めて、サルたちを侵入させないように行動しました。「サルが出没したときにはどうしたらよいか」を、日頃から指導していた賜（たまもの）だと思えます。登下校中にもサルに出くわした生徒もいましたが、適切な対処をし、一人もけが人は出ませんでした。やはり、事前の知識や訓練は大切です。

地震や火災は起きてはいけませんが、万が一起きたときに、北中の生徒は一人一人が適切な行動をとることができるようか。あなたははどうですか。

（十一月十七日 記）

